

OITA BANK

Mini Disclosure



Contents

ごあいさつ	1
経営方針「中期経営計画2011」の概要	2
OITA BANK News Flash!	3
ぶらり大分街歩き<MINI>「日田」	5
業績ハイライト(中間決算のご報告と業績予想) 7	
中間(連結)財務諸表	9
株主の皆さまへ	10
大分銀行のネットワーク	裏表紙

大分銀行 平成24年9月期 ミニディスクロージャー誌
第207期 営業の中間ご報告(平成24年4月1日~平成24年9月30日)

地域をみつめ 未来をみつめ
 大分銀行

お客さまに選んでいただける銀行を目指し、 全役職員が一丸となって 「地域密着型金融の実践」に取り組んでまいります。

取締役頭取 姫野 昌治

ごあいさつ

皆さま方には、平素より大分銀行をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

当行は明治26年の創立以来、当地にて地域の金融機関として営業を継続してまいりました。平成25年2月1日には創立120周年を迎える予定であり、これもひとえに皆さま方の温かいご支援の賜物であると深く感謝申し上げます。

当行の経営理念は、『地域社会の繁栄に貢献するため銀行業務を通じ最善をつくす』であり、当行の発展、成長は大分県を中心とした地域の繁栄と共にあると考えています。また、経営理念をより高いレベルで実現し、永続的に地域と共に発展していくため、全役職員が一丸となって「地域密着型金融の実践」に取り組んでまいります。

平成24年度決算については、平成23年4月よりスタートした「中期経営計画2011」の諸施策に全行を挙げて取り組んでおり、中間期は24億円の黒字計上を果たすことができました。

当行は環境問題への取り組みや、地域のスポーツ・文化振興などさまざまな分野で活動を実践しています。例を挙げますと、地域のボランティア清掃、お祭りへの参加、植林活動、大分銀行ドームなどのネーミングライツ取得、大分トリニータへの支援、大分銀行野球部による少年野球教室の開催、各種コンサート・講演会・地域行事への協賛などです。当行は今後も、大分県を営業基盤とする地方銀行としての責任を果たすべく、お客さまとのリレーションを更に強固なものとし、銀行業務を通じた地域への貢献に積極的に取り組んでまいります。

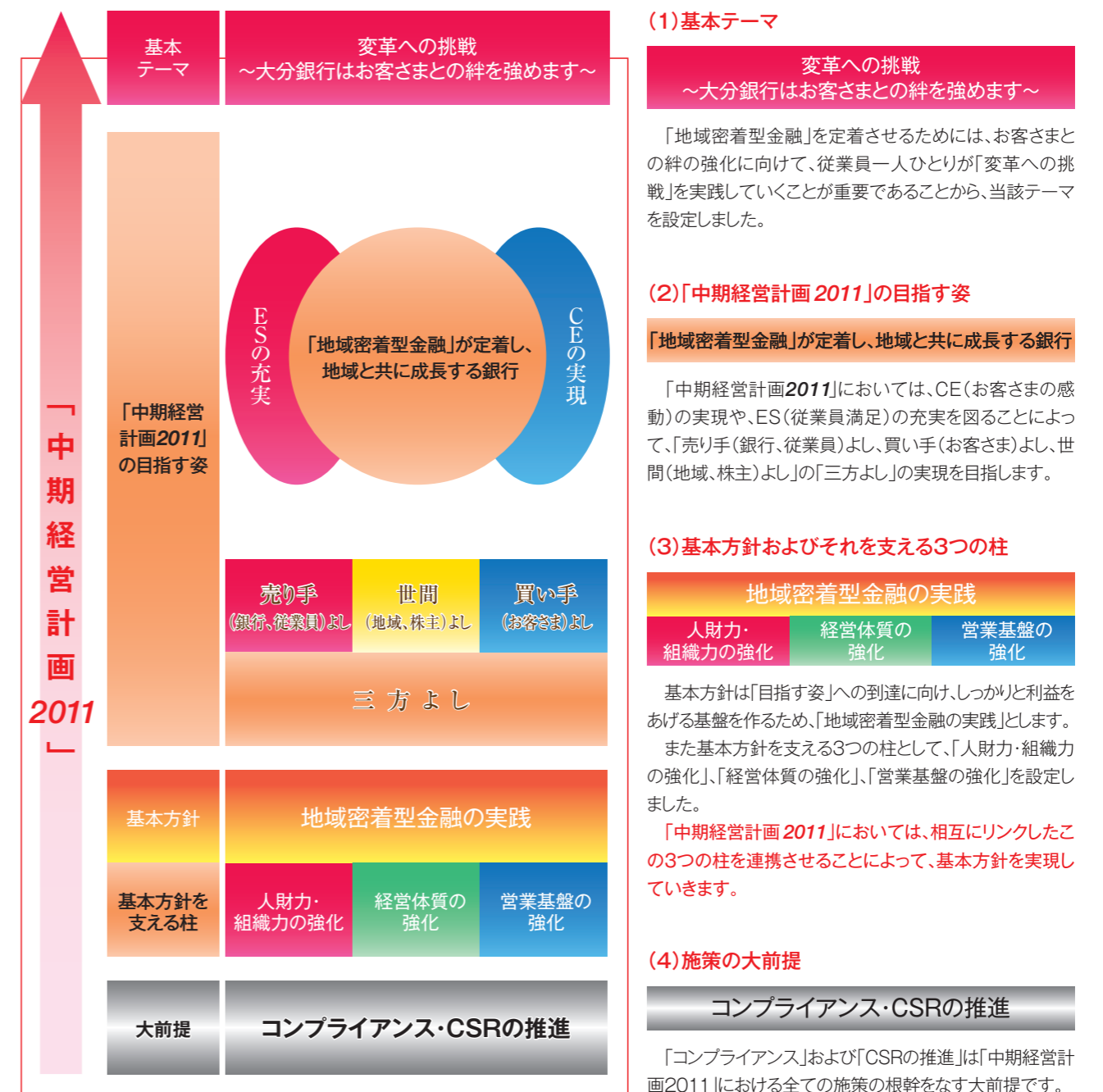
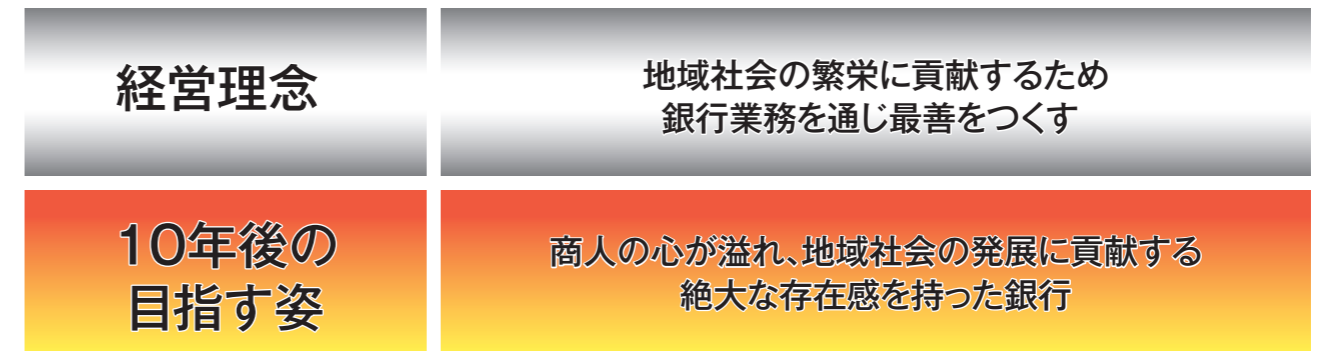
皆さま方には、当行の取り組みに対しまして、なお一層のご理解とご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成24年12月



当行プロフィール (平成24年9月30日現在)

本店	大分市内府内町3丁目4番1号	従業員数	1,773名
創立	明治26年2月1日	※出向者および嘱託、臨時職員を含んでおりません。	
資本金	195億9,843万2,500円	主要勘定	預金等残高 2兆5,630億円
店舗数	103カ店(本支店・出張所)左記のほか 香港駐在員事務所、東京事務所		貸出金残高 1兆6,592億円
CD・ATM 設置台数	453台 (うち店舗外162台)		有価証券残高 1兆86億円



野村アグリプランニング&アドバイザー株式会社との「業務協力に関する覚書」締結について

当行は、農業・アグリビジネスの活性化支援を目的として、平成24年5月8日に、野村アグリプランニング&アドバイザー株式会社と「業務協力に関する覚書」を締結しました。

本業務協力により、地域の発展に貢献できるよう、地域の農業とアグリビジネスの振興策について共同で調査・分析を行うほか、セミナーの開催や研修会の開催により地域の農業を中心とした関連ビジネスを担う人材・企業の育成を積極的にサポートいたします。



●業務協力の内容

- (1) 農業・アグリビジネスに関する情報交換
- (2) 農業・アグリビジネスによる地域振興に関すること

ネーミングライツの継続取得について

当行では、平成22年3月に取得しました大分スポーツ公園総合競技場等のネーミングライツにつきまして、大分県との間で継続取得（期間3年：平成25年3月1日～平成28年2月29日）することに基本合意いたしました。施設の名称については、現在の名称を引き続き使用いたします。



大分スポーツ公園総合競技場内の施設	施設の名称
①総合競技場	「大分銀行ドーム」
②野球場	「だいぎんスタジアム」
③投てき場	「だいぎんフィールド」
④サブ競技場	「だいぎんグラウンド」
⑤サッカー・ラグビー場	「だいぎんサッカー・ラグビー場」
⑥テニスコート	「だいぎんテニスコート」



大分トリニータJ1昇格支援金について

当行は、地元経済界が協力して行う株式会社大分フットボールクラブ（代表取締役 青野 浩志 氏）の「大分トリニータJ1昇格支援金」活動に対して支援金1,000万円を拠出し、同クラブとの間でアドボードスポンサー契約を締結しました。

上記支援以外にも、当行および当行グループ役員を対象として、「がんばれ! 大分トリニータ “だいぎん支援の絆” キャンペーン」と称した募金キャンペーンを実施し、506万円を株式会社大分フットボールクラブに寄贈しました。



平成24年7月九州北部豪雨に対する義援金拠出のお知らせ

平成24年7月九州北部豪雨により被災されました被災者の皆さま方の支援と、被災地の復興に役立てていただくために、特に被害が甚大であった中津市・日田市・竹田市の3市に対して義援金を拠出いたしました。

また、当行行員が各地でボランティアとして復旧活動のお手伝いをさせていただきました。

心からお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い完全復旧を心からお祈り申し上げます。



義援金拠出額	3,000,000円
(内訳) 中津市	1,000,000円
日田市	1,000,000円
竹田市	1,000,000円

「再生可能エネルギーセミナー」開催

東日本大震災以降、我が国における再生可能エネルギーへの取組みが活発化している中、本年7月より、再生可能エネルギーを固定価格で全量買い取ることを法律で定める「固定価格買取制度」(FIT: Feed in Tariff) がスタートしました。

当行では、平成24年7月10日に、公益財団法人大分県産業創造機構さまの後援により、再生可能エネルギーの固定価格買取制度に興味をお持ちの皆さまを対象とした「再生可能エネルギーセミナー(メガソーラー編)」を開催しました。

当日は、再生可能エネルギーの中でも特に注目を集めている「大規模太陽光発電事業(メガソーラー事業)」についての説明を行いました。

●当日の内容

- (1) 固定価格買取制度について
- (2) 太陽光発電の最新動向について
- (3) 大分県の取組みについて
- (4) 大分銀行の取組みについて



「再生可能エネルギーチーム」、「不動産ファイナンスチーム」、「でんさい導入チーム」の設置について

当行では平成24年5月1日に、メガソーラーをはじめとする再生可能エネルギー事業への展開を検討するお客さま、不動産の活用を検討するお客さま、電子記録債権「でんさい」の導入を検討するお客さまを応援するため、「再生可能エネルギーチーム」、「不動産ファイナンスチーム」、「でんさい導入チーム」を設置しました。どうぞお気軽にご相談下さい。



●各チームの特徴

- (1) 再生可能エネルギーチーム
太陽光・地熱・小水力などの再生可能エネルギーや省エネルギーに関する設備投資のご相談に対応させていただきます。
- (2) 不動産ファイナンスチーム
マンション開発、アパート経営などの不動産に関するご相談に対応させていただきます。
- (3) でんさい導入チーム
手形に代わる新しい電子記録債権「でんさい」の導入をご検討中のお客さまのご相談に対応させていただきます。



日田

～水と森に彩られた天領の街～

「山あいには都あり」——古くから北部九州の各地を結ぶ交通の要衝として栄えた日田。江戸時代には幕府の直轄地「天領」として西国筋郡代が置かれ、九州の政治・経済・文化の中心地として栄華を極めました。そのため、現在も当時の歴史的な町並みや伝統文化が脈々と受け継がれており、古い町割がそのまま残っている豆田町では、今でも江戸時代の古地図を持って歩けると言われるほどです。一方で日田は、古くから山々の緑と清流の里としても知られており、「水郷」日田としても有名です。周囲を阿蘇・くじゅう山系や英彦山系の美しい山々に囲まれ、これらの山系から流れ出る豊富な水が日田盆地で合流し、「水郷」としての景観を作っています。



右:燃ゆる夕日が緩やかな山の稜線に沈んでいき、その光を浴びた三隈川は美しく色づきます。

三隈川



NEWS!

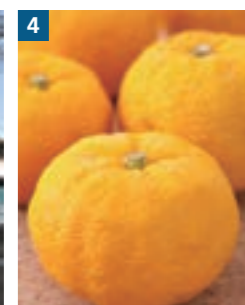
みんなで作ろう！虹の国オオイタ ダンボールアート作成のワークショップ開催について

平成24年10月、日田・竹田・耶馬溪の県内3ヶ所において地元小学生を対象にダンボールアート作成のワークショップを開催いたしました。この

企画は、今夏大分県を襲った大雨水害により被害を受けた地区の復興を願ったもので、被災地の子供たちに楽しいひと時を過ごしてもらうことを目的としダンボールを素材とした、希望にあふれた「虹の国オオイタ」を作成いたしました。



大分県出身の若手アーティストを講師に起用して開催いたしました。(「ザ・キャビンカンパニー」阿部健太郎氏・吉岡紗希氏)



1紅葉が美しい咸宜園は、世界遺産への登録を目指しています。2大正レトロな雰囲気の「ひた押し花美術館(黎明館)」は大分銀行の旧日田支店です。3天領時代の面影の残る豆田町。4天瀬町内では「あまがせゆずさんぼ」を開催中(P10参照)。

平成24年度中間決算のご報告

平成24年9月期は、貸出金利息と貸倒引当金戻入益の減少による経常収益の減少と、国債等債券売却損・償還損と株式売却損の増加による経常費用の増加により、**経常利益は前年同期比13億円減少し、42億円**となりました。

中間純利益は、経常利益の減少により前年同期比で13億円減少し24億円となりました。



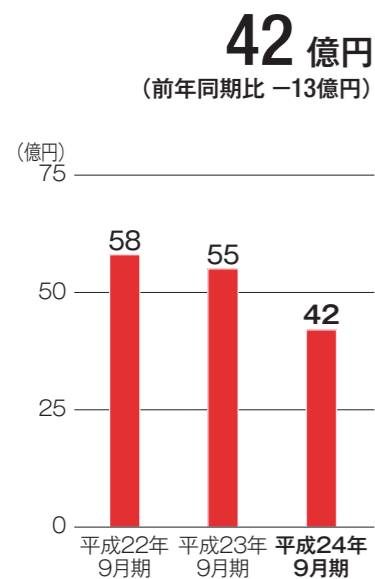
平成24年度の業績予想

平成24年度の業績につきましては、経常収益は463億円、経常利益は72億円、当期純利益は42億円を見込んでおります。

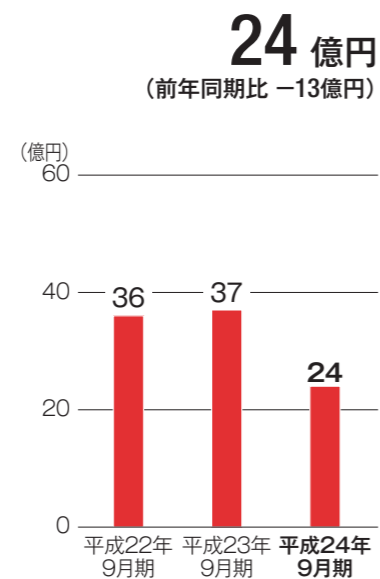
なお、業績予想の前提として、日経平均株価を8,000円、与信費用を-(マイナス)1億円と予想しております。

主要な指標の推移

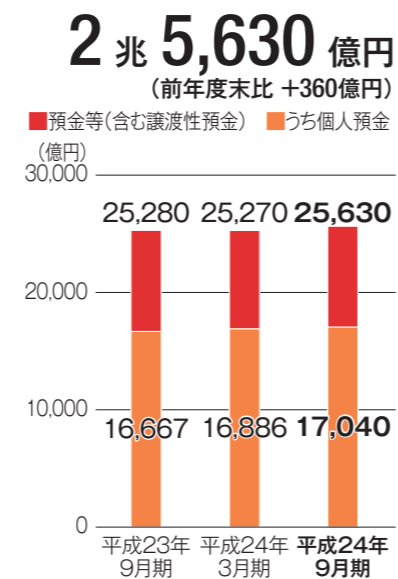
● 経常利益



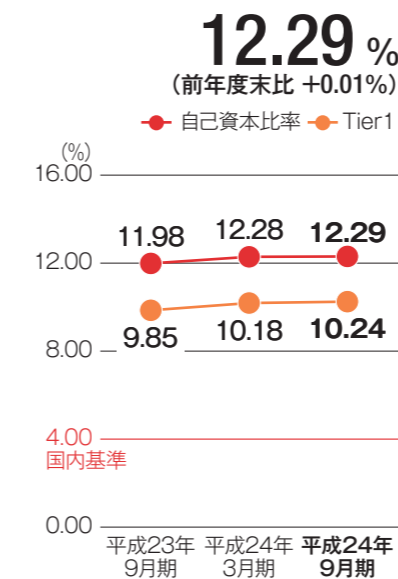
● 中間純利益



● 預金等



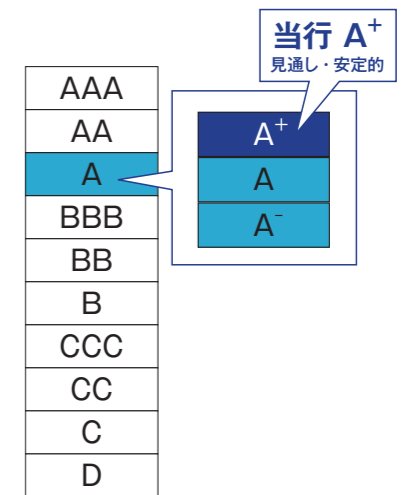
● 自己資本比率



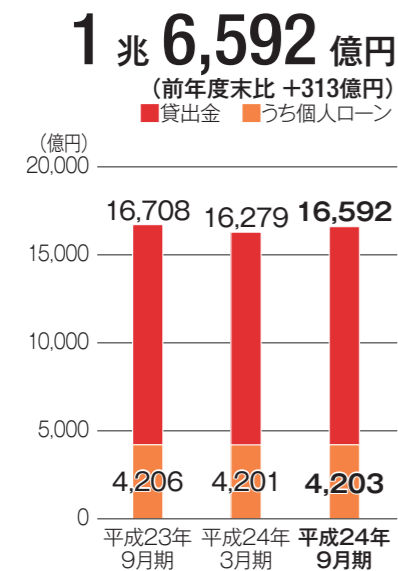
格付け

当行は、平成12年9月29日付で日本格付研究所(JCR)の長期優先債務格付「A+(債務履行の確実性は高い)」を取得し、その後も格付「A+」を継続取得しています。

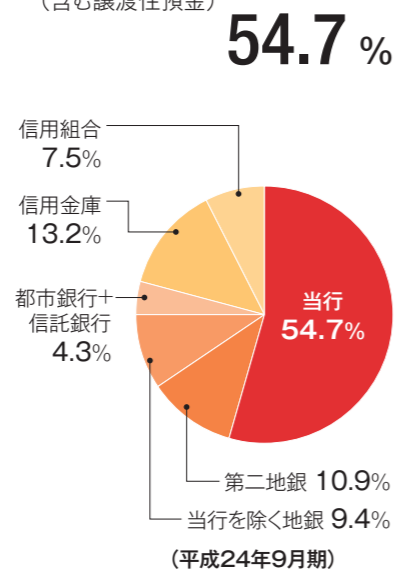
※長期優先債務格付
長期優先債務格付とは、具体的な債券を特定せず、その銀行が現在背負っている無担保の債務または将来背負うであろう不特定の無担保債務を包括的に捉えて、債務履行能力を格付けしたものです。



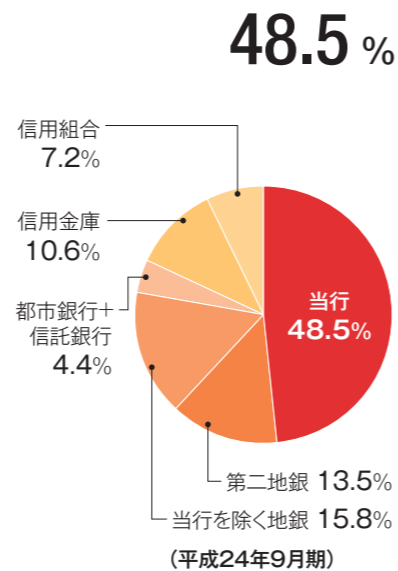
● 貸出金



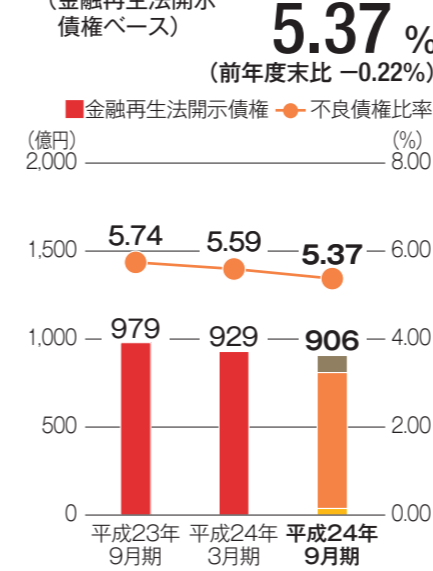
● 大分県内の預金シェア(含む譲渡性預金)



● 大分県内の貸出金シェア

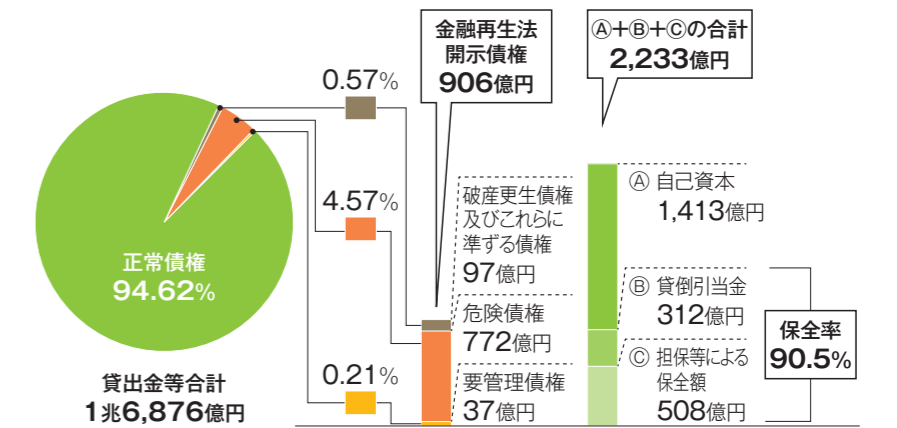


● 不良債権比率(金融再生法開示債権ベース)



● 金融再生法開示債権の保全状況

平成24年9月末の金融再生法に基づく開示債権額906億円のうち、担保等による保全および貸倒引当金による保全率は90.5%となっており、引当されていない部分についても自己資本により十分カバーされています。



■ 用語解説

金融再生法開示債権 金融再生法に基づき、貸出金等(貸出金・支払承諾見返・外国為替・仮払金・未収利息)を対象とし債務者単位で区分しております。

破産更生債権及びこれらに準ずる債権 破産等により経営破綻した融資先への債権及びこれらに準ずる債権をいいます。

危険債権 経営は破綻していないが経営悪化等により、今後経営破綻となる可能性の高い債権をいいます。

要管理債権 3カ月以上延滞している貸出金と融資先の経営再建又は支援を図るために金利減免や元金返済猶予等を実施した貸出金の合計をいいます。(要管理債権は個別貸出金単位)

正常債権 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」「危険債権」及び「要管理債権」以外の債権をいいます。

中間(連結)財務諸表

中間連結貸借対照表 (単位: 百万円)
(平成24年9月30日現在)

科目	金額	科目	金額
資産の部		負債の部	
現金預け金	43,640	預金	2,400,524
コールローン及び買入手形	85,000	譲渡性預金	157,626
買入金銭債権	14,304	コールマネー及び売渡手形	80,864
商品有価証券	7	債券貸借取引受入担保金	8,481
金銭の信託	4,694	借入金	23,732
有価証券	1,010,392	外国為替	45
貸出金	1,653,778	その他負債	24,796
外国為替	3,415	賞与引当金	1,075
リース投資資産	14,580	役員賞与引当金	22
その他資産	23,779	退職給付引当金	10,404
有形固定資産	37,949	役員退職慰労引当金	28
無形固定資産	5,928	睡眠預金払戻損失引当金	1,587
繰延税金資産	7,832	再評価に係る繰延税金負債	6,185
支払承諾見返	17,185	負のれん	29
貸倒引当金	△ 40,340	支払承諾	17,185
資産の部合計	2,882,149	負債の部合計	2,732,591
		純資産の部	
		資本金	19,598
		資本剰余金	10,745
		利益剰余金	93,655
		自己株式	△ 442
		株主資本合計	123,556
		その他有価証券評価差額金	12,072
		繰延ヘッジ損益	△ 1,427
		土地再評価差額金	9,485
		その他の包括利益累計額合計	20,130
		新株予約権	38
		少数株主持分	5,832
		純資産の部合計	149,557
		負債及び純資産の部合計	2,882,149

中間貸借対照表 (単位: 百万円)
(平成24年9月30日現在)

科目	金額	科目	金額
資産の部		負債の部	
現金預け金	42,669	預金	2,405,376
コールローン	85,000	譲渡性預金	157,626
買入金銭債権	14,304	コールマネー	80,864
商品有価証券	7	債券貸借取引受入担保金	8,481
金銭の信託	4,694	借入金	15,046
有価証券	1,008,686	外国為替	45
貸出金	1,659,231	その他負債	21,412
外国為替	3,415	未決済為替借	1
その他資産	17,732	未払法人税等	1,590
有形固定資産	36,223	未払費用	2,628
無形固定資産	5,842	前受収益	616
繰延税金資産	6,253	給付補てん備金	3
支払承諾見返	17,052	金融派生商品	2,752
貸倒引当金	△ 37,792	リース債務	959
資産の部合計	2,863,321	資産除去債務	193
		その他の負債	12,667
		賞与引当金	972
		役員賞与引当金	22
		退職給付引当金	10,223
		睡眠預金払戻損失引当金	1,587
		再評価に係る繰延税金負債	6,185
		支払承諾	17,052
		負債の部合計	2,724,897
		純資産の部	
		資本金	19,598
		資本剰余金	10,582
		資本準備金	10,582
		利益剰余金	88,513
		利益準備金	10,431
		その他利益剰余金	78,082
		固定資産圧縮積立金	104
		別途積立金	75,130
		繰越利益剰余金	2,848
		自己株式	△ 442
		株主資本合計	118,251
		その他有価証券評価差額金	12,075
		繰延ヘッジ損益	△ 1,427
		土地再評価差額金	9,485
		評価・換算差額等合計	20,133
		新株予約権	38
		純資産の部合計	138,423
		負債及び純資産の部合計	2,863,321

中間連結損益計算書 (単位: 百万円)
(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)

科目	金額
経常収益	28,587
資金運用収益	18,511
(うち貸出金利息)	13,088
(うち有価証券利息配当金)	5,355
役務取引等収益	3,635
その他業務収益	5,462
その他経常収益	978
経常費用	23,475
資金調達費用	1,332
(うち預金利息)	695
役務取引等費用	722
その他業務費用	4,121
営業経費	16,175
その他経常費用	1,124
経常利益	5,111
特別利益	1,371
負のれん発生益	1,371
特別損失	219
固定資産処分損	180
減損損失	38
税金等調整前中間純利益	6,263
法人税、住民税及び事業税	2,171
法人税等調整額	△ 250
法人税等合計	1,921
少数株主損益調整前中間純利益	4,342
少数株主利益	362
中間純利益	3,980

中間損益計算書 (単位: 百万円)
(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)

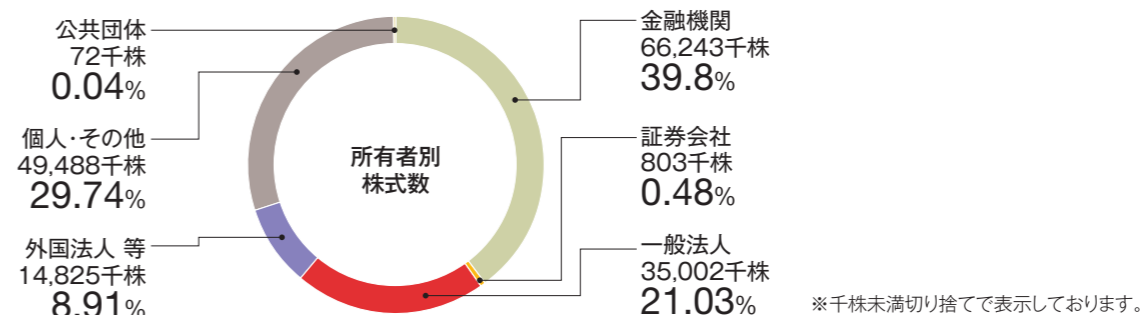
科目	金額
経常収益	23,852
資金運用収益	18,198
(うち貸出金利息)	12,787
(うち有価証券利息配当金)	5,343
役務取引等収益	3,354
その他業務収益	1,456
その他経常収益	843
経常費用	19,652
資金調達費用	1,288
(うち預金利息)	696
役務取引等費用	878
その他業務費用	811
営業経費	15,577
その他経常費用	1,096
経常利益	4,200
特別利益	0
特別損失	216
税引前中間純利益	3,984
法人税、住民税及び事業税	1,816
法人税等調整額	△ 246
法人税等合計	1,569
中間純利益	2,414

株主の皆さまへ

株式の状況 (平成24年9月30日現在)

発行済株式総数 166,436千株
株主数 9,172名

株式分布状況



株式についてのご案内

- **事業年度**
毎年4月1日から翌年3月31日までといたします。
- **定時株主総会**
毎決算日の翌日から3ヵ月以内に開催いたします。
- **剰余金の配当および中間配当**
剰余金の配当は毎年3月31日現在の株主名簿に記載された株主または登録株式質権者に対し、定時株主総会終了後お支払いいたします。中間配当を行う場合は、取締役会の決議によって、毎年9月30日現在の株主名簿に記載された株主または登録株式質権者に対し、お支払いいたします。なお、お取引の金融機関預金口座振込をご指定くださいますとお受取りが速くて便利です。
- **定時株主総会の基準日**
毎年3月31日といたします。
その他必要があるときはあらかじめ公告いたします。
- **公告方法**
大分合同新聞および日本経済新聞に掲載いたします。

- **株主名簿管理人**
東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号
日本証券代行株式会社
- **同事務取扱場所**
福岡県福岡市中央区天神二丁目14番2号
日本証券代行株式会社 福岡支店
(郵便物送付先/お問合せ先)
〒137-8650 東京都江東区塩浜二丁目8番18号
日本証券代行株式会社 代理人部
電話 0120-707-843(フリーダイヤル)
<※平成25年1月より郵便物送付先が変更となります。>
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
日本証券代行株式会社 代理人部
- **各種手続のお申出先**
・未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人にお申出下さい。
・住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金受取方法の指定等証券会社をご利用の株主様は、お取引の証券会社へお申出下さい。
証券会社をご利用でない株主様は、特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社へお申出下さい。

表紙の写真「三隈川」(大分県日田市)



水郷日田のシンボルとも言える三隈川。九州最大の河川「筑後川」の上流に位置し、日田盆地の中央を東から西へ流れ、遠く有明海にそそいでいます。三隈川の流れる隈町エリアには温泉旅館が立ち並び、夏場には屋形船・鶴鯛い・花火大会など「夏の風物詩」と呼ぶにふさわしい様々なイベントが催され、訪れる多くの人々を魅了します。

あまがせゆずさんぽ

日田の
キャンペーン
紹介

あまがせで ゆずを訪ねて、の〜んびりおさんぽ。
別府・由布院とともに「豊後三大温泉」と呼ばれる天ヶ瀬温泉。その天瀬町内において、柚子のグルメ・お土産・温泉を楽しむキャンペーン「あまがせゆずさんぽ」が開催されています。キャンペーン期間中は参加施設でスタンプラリーが行われるほか、12月の毎週土曜には立ち寄り可能な温泉施設で「柚子風呂」が実施されます! 柚子料理を楽しんだ後は、柚子風呂で体の芯まで温まる—そんな週末はいかがでしょう。
(開催期間:平成24年10月25日~平成24年12月22日)



地域をみつめ 未来をみつめ あなたの街の大分銀行です。

